



第34回 ビジネス日本語研究会

就労日本語教師の質を可視化する



特定非営利活動法人 日本語教育研究所
理事 長崎 清美

I. 特定非営利活動法人 日本語教育研究所について

II. 就労者に対する日本語教師養成

(文化庁 就労者に対する日本語教師【初任】研修)

III. SJ指導者Can-do statementsをどう活用するか？

IV. SJ指導者Can-do statementsで
自己評価「しやすいもの」「しにくいもの」

V. 就労日本語教師の質を可視化すれば…

I . 特定非営利活動法人 日本語教育研究所について

- ・日本語教育領域におけるコンサルティングおよびソフト開発事業を展開する企業を前身に設立
- ・2003年に特定非営利活動法人に移行
- ・会員数 約300名
- ・日本語教育の発展、
国際社会の日本語・日本文化への理解促進に寄与するため活動中

1. 日本語教育に関する調査・普及啓蒙事業

外国籍社員を受け入れる日本人社員向け研修

2. 日本語学習者支援事業

『留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール』等教材

3. 日本語教師支援事業

就労者への日本語教育に携わる人に特化した研修

4. 日本語教育支援事業

企業向け日本語研修



Ⅱ. 日本語教育研究所の多様な研修実績及び人材を活かした 就労者に対する日本語教師養成

多様なニーズに対応する力

講座で目指したもの

受講者の日本語力、受講者と企業の
ニーズを的確にとらえる能力

日本語力とニーズに対応した
コースデザインができる能力

研修の進捗状況や評価を報告するための
コミュニケーション能力

教材作成や報告業務などに必要な
コンピューターリテラシー

大小様々な企業の就労者に対する
日本語研修を実施して得たノウハウ

+

300名を超える当研究所の
人材(会員)、ネットワーク

【研修第1期】理論編

反転授業を取り入れ、講座は双方向のやりとりを中心に進める

1. 就労者に対する日本語教育概論
2. 就労者のニーズの多様性
3. 外国籍人材の就職状況及び企業が求める人材
4. 就労者の異文化適応
5. 生活・就労のためのCan-doと教材
6. ビジネスパーソンへの日本語レッスンの実際
7. 評価の方法
8. ICTの活用
9. 日本企業で働くための日本語能力とは
10. 外国人ビジネスパーソンから見た日本の企業文化
11. 企業の人事戦略における外国籍人材
12. オンライン日本語教育に関する著作権
13. コースデザイン
14. 学習者の学習状況の管理, 個人カルテ / 企業への報告

講座後に確認テストを実施

【研修第2期】実習・ワークショップ編

■ビジネス日本語教師とは

実際の研修では、どのような内容を扱っているのかの紹介。
研修に合わせ、テキストをどうカスタマイズするかを話し合う。

■ビジネス日本語のコースデザイン

参加者が用意したコースデザインをもとにディスカッションを行う。

■オンラインレッスン概要と実習

レッスンの実例の紹介。模擬レッスン。

■ライティング添削実習

就労者へのライティング指導のポイント。

Wordの機能を活用した模擬添削とそのフィードバック。

■PC活用講座

PCを使っでの記録、報告書などの実例紹介。

Googleアプリを使ったwebテスト等を作成する。

1期（理論編）の学びを
実習などを通して実践し、理解を確認

就労日本語教師として必要なことを学んで…



- すぐに仕事をしないと、忘れてしまう…
- 仕事に応募してもなかなか採用されない…何がいけないの？
- 目の前の案件（研修）に求められるものに意識が向いてしまい、全体像を忘れがち…
- コーディネーターからは、案件ごとに「就労者のニーズは多様ですから…」と新しいお願いをされる…何を学んでおけばいいのか！どこで学べばいいのか？！

就労日本語教師として、

基本に立ち返れるもの、共通認識（可視化）になるものがあれば！

それが、SJ Can-Do Statements？

Ⅲ. SJ指導者Can-do statementsを どう活用するか？

1. 専門家としての「質」を担保するために
就労日本語教師としての「基本」を自己評価し、
自分に欠けている部分に気づく。

刻々と変化する社会情勢に左右される就労日本語のニーズを把握し、それに対応するためには、学び続けることが必要！
その指針として使ってみる。

Ⅲ. SJ指導者Can-do statementsを どう活用するか？

2. 就労日本語教師としての付加価値を高めるため 自分の「強み」を知り、自分の「売り」を見つける。

就労日本語教師として生きていくには、
企業（学習者）に選ばれる日本語教師になることが必要！
そのためには、自分の「売り」を知っておくことは重要。

就労日本語学習者が多様であると同時に、
就労日本語教師のバックグラウンドもさまざま！
基本を押さえた上で、他の講師との差別化をはかるのもアリ！

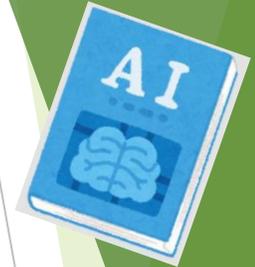
IV. SJ指導者Can-do statementsで 自己評価「しやすいもの」「しにくいもの」?

将来、AIの進化で、
文法や語彙は教師がいなくても学べるようになるかもしれない。

しかし、就労日本語を学ぶ人たちは、
仕事を成功させるために日本語を必要としている。
それにはいい人間関係が築ける日本語を身に付けることが重要では？

とらえどころのない力をどう評価する？

このニーズに応えるには、
教師自身にも「**いい人間関係が築ける力**」が重要



SJ指導者 Can-do statements 分野7. コース運営

33. 「指導者コミュニティ」に参加・運営ができる

33.1 コースの実施や運営に関わるほかの指導者、教師とよい関係を作ることができる

33.2 ほかの教育経験、ビリーフを理解することができるエンパシー

33.3 コースの目的、内容、実施方法を明確に説明し、共有することができる

33.4 担当者同士がよい関係で仕事ができるように工夫することができる

33.5 必要な研修を企画、実施し、SJ分野の人材を育成することができる

自己評価は難しいかもしれないが、「意識化」することが重要

自己評価の「できる」に安心しないことも重要
周りからの評価にも耳を傾けること

V. 就労日本語教師の質を可視化すれば…

就労日本語教師として何が求められるのかが
明らかにできれば、
就労日本語教師の「専門性」を示すことができる！

その「専門性」に照らし合わせ、
自分の強みと、不足している部分を知り
教師自身の「専門性」も示すことができるのでは？